

フェアプレーを学ぶ

尾形香林(東京都太田区立小池小学校6年)

相墨勇磨(神奈川県横浜市立緑園義務教育学校7年)

松本紗知(千葉県千葉市立花園中学校1年)

令和6年5月25日(土)、26日(日)

広島県三次市

全生山研修所農士塾

資料

小泉信三 「スポーツが与える三つの宝」

福田雅之助 「本気な人間になれ」

佐藤次郎 「マナーキッズ大使海外派遣」と

佐藤次郎

スポーツが与える三つの宝 「小泉信三」

練習のすばらしさ

- ・「水に落ちて死ぬものと、浮かんで生きるものとは、別種類の動物だ」ということを読んで、練習がいかに大切なことが分かりました。
- ・僕はバイオリンをやっていて、練習をすることによって、感覚や、コツ、技術を身につけることができたので、「不可能を可能にするのは練習だ」という小泉信三さんの考えに共感しました。
- ・私は、たしかに機械体操でほとんど重力を無視したと思われるほど、不可能と言われたことを可能にしている本当にこの世のなかは一生懸命に練習をすれば不可能を可能にかえられるのだと思った。
- ・練習で不可能を可能にする体験。

フェアプレーについて

- ・勝敗より正々堂々といさぎよく勝負すること。
- ・good loser(いさぎよい敗者)という言葉聞き、負けたときはとてもくやしいけれど、本気でたたかって、負けた時は相手を認められるようなフェアプレーの精神をテニスを通じて身につけたいと思った。
- ・フェアプレーの精神が共感できたのは、ズルして勝っても楽しくないし、そもそも勝ったことにならないと思う。
- ・勝敗の価値より、どれだけ尋常な勝負をしたか、また全力で真正面からぶつかりにいったかの価値の方が高いということが分かった。

友達の大切さ

- ・練習は大事だけどつらいときもある。そんなときこそ一緒にがんばる友がいればのりこえられる。
- ・「共に試合を出場した、いわば戦友ともいうべき友、更に敵味方となって勝負を争った」という言葉を読んで、僕は共感しました。なぜなら、友達とライバル心を持って、切磋琢磨することで共に成長できて、かけがいのない友達になれると思ったからです。
- ・もちろん「友達」とは、大切な宝だが、私は、このスポーツが与える力を読んで、特に戦友は大切に認め合っていこうと思った。なぜなら勝負を争った同じコートで全力で戦いあった同じ思いがある友だから。
- ・友は或る意味日光に比すべきものであり、その友が私たちの心ことにあるよきものを育ててくれるということに共感しました。

- ・友を持ちえた者は「人生の最も大きい幸福を得たもの」というべきである」という言葉を聞き、友達と一緒にいたとき、自分になにをしてくれたのかなだと思い返すことができ、「友」というのは、一生でとても大切なことを改めて思わせてくれました。
- ・人生で最も大きな幸福をあたえてくれる友を大切にする。
- ・友は、人生の最も大きい幸福を得たものというべきである。のところに共感した。私は、学校に行くのがきらいではないかど、正直、学校の楽しみは、友達としゃべることだと思う。もし、友達がいなかったら学校もきらいになってしまうかもしれない。学校生活のなかで友達は大切だと思った。なので友は人生の中で、一番くらい大切なことだと思った。

本気な人間になれ「福田雅之助」

物事を身につけるために

- 嫌なことでも、つまらないことでも、本気でやって自分のものにする。
- 同じ物事でも、いやいややるのと、よろこんでやるので、その人が得るものが違うということがわかりました。
- テニスを通じて、なにごとにも本気の人間になることで、立派な人間として成長することがわかった。
- コート上でも、コート外でも立派なスポーツマンに君たちになったほしい。というところで、テニスだけじゃなく、ふつうの学校生活や部活でもいい人間になるために、フェアプレー（正直）になりたいと思った。

- ・基礎をしっかりとやり、何をやる時も常に楽しむ心を忘れないこと。
- ・本文より、平生の練習をいかに本気でやるかが、大事だと学んだ。ふだん勉強やスポーツをやるときは、本気で集中してやる。逆に遊ぶときは、他のことを考えず、とことん遊ぶ。そんな風にめりはりをつけて生活していきたいと思った。
- ・ロール引き、ライン引き、コートの水はけをきちんとやることで、忍耐力と辛抱心が身につくことがわかった。

立派な人間になるためには

- ・普段の生活（練習）がテニスの試合に出るということが分かり、今までの自分の生活（練習）の態度を見直したいと思いました。
- ・コートマナーを立派にして立派な人間になること。

マナーキッズ大使海外派遣と「佐藤次郎」

佐藤次郎さんについて

- ・最初、佐藤次郎さんは小さい板をけずって、ラケットがわりにしてテニスをしていて、道具がなくても自分で工夫をするところがすばらしいなと思いました。
- ・佐藤次郎さんは、いつも家の庭で壁を相手にしてテニスをやっていたり、学校の放課後、だれもいなくなるまでテニスをしていたりして。佐藤次郎さんのテニス愛をさらに感じました。
- ・佐藤次郎さんは、テニスをやりたいと思う気持ちがすごく強かったから、道具や設備が十分にそろっていなくても、自分で工夫して、テニスができる環境を作る事ができたのだと思いました。

- ・佐藤次郎さんは、高い技術に加え、コート内でのマナーも良く外国人の人々に高く評価され、日本人に勇気を与えた人だと知って素晴らしいなと思いました。私も小さなことでも友達のことを勇気づけたいと思った。
- ・佐藤次郎が作った世界ランキング三位という記録が今でもいないことに驚きました。技術だけでなく、全人格で勝利を勝ち取り、日本人に与えたことに感動しました。
- ・コート作りというかこくな仕事を佐藤次郎さんは、そっせんしてやっていて、佐藤次郎さんのテニス愛を感じました。

この文章を読んで感じたこと

- ・勉強とスポーツどちらも大切に努力していくこと。
- ・強い意志と実行力があればどんどん先まで進めること。
- ・「全人格で勝つ」という言葉が心に一番の残った。
- ・私はテニスを始めた時、ラケットも持っていたし、テニスコートでできた。この環境をあたりまえだと思わず、感謝すべくだと感じた。
- ・「好き」というものを続けていくことの大切さが分かった。

チームの結論

スポーツが与える三つの宝

- ・練習で不可能を可能にする体験をすることと、勝負より正々堂々といさぎよく勝負をすること。そして人生で最も大きな幸福を与えてくれる友を大切にすること。

本気な人間になれ

- ・私たちはロール引きやライン引きなどの嫌なこと、つまらないことでも本気でやることで成長していき将来立派な人間になることができる。

マナーキッズ大使海外派遣と佐藤次郎

- ・佐藤次郎さんは、何もないところからテニスをやりたい！という気持ちと実行力があつたからテニスのできる快適な場所を作れたのだと思った。

個人の感想

- ・今回とうぎをして、前までは、スポーツは楽しいからやる、勝ちたいという気持ちが大きかったけど、スポーツがあるから、友ができた、うまくなるだけじゃなく、心を成長させるためにも必要なことだと思いました。また、スポーツ以外でも勉強でも、きらいなことでも、一つ一つ本気でやって将来立派な人間になりたいと思いました。
- ・今回、三つの課題をやって、練習、マナー、なにごとにも本気でやることが重要なことが分かりました。また、コートマナーを立派にすることで生活面からも成長することができることが分かりました。今回グループ討議をして、僕とは違う感想や意見を聞き、自分の考えを深めることができました。
- ・私はこれらの三枚を読んで大切だと思ったことは、基礎をしっかりとやり、何をする時も常に楽しむ心を忘れないことだと思いました。また、私は「好き」という思いを強くもてていないので、その「好き」という思いを大切にしていきたいと大事だと思いました。最後に佐藤次郎さんが「勝は全人格でとる」という言葉があったので、私はマナーもしっかりとみにつけていきたいと思います。